（法第10条第１項第１号）

NPO法人結び手 定款

第１章 総則

（名称）
第１条　この法人は、NPO法人結び手という。
（事務所）
第２条　この法人は、主たる事務所を東京都港区南青山二丁目2番15号 WIN青山531に置く。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　この法人は、次の目的を達成する。

（1）団体メンバー及び社会活動家・NGOを初めあらゆる機関と共に、世界各地の貧困地域に生活することで外部環境が原因で努力できない状況を、緊急性の高い支援の他、教育・職業訓練等を通して解決し、国籍、場所、年齢、性別等の属性に関わらず努力したい人が努力することができる国際社会を創出する

（2）団体メンバー及び地域社会の高齢者入居施設等と共に、国際交流や国際貢献の機会提供を通じてコミュニケーションの場を提供し、日本国における自殺および高齢者の認知症を予防する

（3）団体メンバー及び途上国における社会活動家・NGOと共に、日本企業や学校等の教育機関を通じて講演活動やCSR活動支援等を通じて日本国における国際教育の促進を図る

（特定非営利活動の種類）
第４条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。
（1）　保健、医療又は福祉の増進を図る活動
（2）　社会教育の推進を図る活動
（3）　国際協力の活動
（4）　子どもの健全育成を図る活動
（5）　前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

（事業）
第５条　この法人は、その目的を達成するため、特定非営利活動に係る次の事業を行う。

（1）途上国課題解決プロジェクト
第3条（1）の目的を達成するために、貧困地域に生きる人々および現地で課題解決のために活動する団体・個人と協力してプロジェクト形成・運用を実施することで生活向上をめざす人への教育・職業訓練を通じた機会提供と雇用創出事業

（2）国際教育活動

第3条（３）の目的を達成するために、日本各地の学校・企業等に対し貧困地域の現状を伝える

啓発活動およびコミュニケーション手段としての英語教育、学生・企業の従業員参加画型の研修プロジェクト活動・CSRサポートを実施する事業

（3）認知症予防活動

第3条（２）の目的を達成するため、日本各地の社会福祉施設、とりわけ老人福祉施設等に対して、途上国と姉妹村形成や国際協力活動の啓発活動および参画型プロジェクトを通じた認知症予防活動を実施する事業

（4）協業活動

第3条すべての目的をより迅速に達成するため、日本国の人達に対する日本国内の同一もしくは類似の目的を持って活動する他団体・個人の啓発活動を実施する事業

（5）啓蒙活動

第3条すべての目的をより迅速に達成するため、日本および世界の人々が互いの文化・社会・経済などの状況を知るためのスタディーツアー、ホームページ、会報、メールマガジン、出版、セミナー等による普及啓発活動を実施する事業

（6）　その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第３章　会員

（種別）

第６条　この法人の会員は、次の３種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

(1)　正会員　この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
(2)　賛助会員　この法人の事業を賛助するために入会した個人
(3)　法人会員　この法人の事業を賛助するために入会した団体

（入会）

第７条　会員の入会については、特に条件を定めない。

2　会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3　理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第８条　会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第９条　会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

(1)　退会届の提出をしたとき。
(2)　本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
(3)　継続して、１年以上会費を滞納したとき。
(4)　除名されたとき。

（退会）

第10条　会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除名）

第11条　会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事会の議決により、これを除名する

ことができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。
(1) この定款に違反したとき。
(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
(3) 内外の諸法令または公序良俗に反する行為を行ったとき。
(4) 当法人、他の会員または第三者を誹謗中傷する情報を流したとき。
(5) 当法人の名誉と信用を失墜させる行為があったとき。
(6) 入会申込書に虚偽の事項を記載したことが判明したとき。

（入会金、会費の不返還）
第12条 既納の入会金、会費は、返還しない。

第４章 役員

（種別及び定数）
第13条 この法人に次の役員を置く。
(1) 理事 ３人以上１５人以内
(2) 監事 １人以上２人以内
2 理事のうち、１人を理事長とし、２人を副理事長とすることができる。
（選任等）
第14条 理事及び監事は、総会において選任する。
2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは３親等以内の親族が１人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び３親等以内の親族が役員の総数の３分の１を超えて含まれることになってはならない。
4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。
（職務）
第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
5 監事は、次に掲げる職務を行う。
(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
(2) この法人の財産の状況を監査すること。
(3) 前２号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。
（任期等）
第16条 役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
3 前2項の規定にかかわらず、任期満了前に、総会において後任の役員が選任された場合は、当該総会が終結するまでを任期とする。また、任期満了後、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。
（欠員補充）
第17条 理事又は監事のうち、その定数の３分の１を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。
（解任）

第18条　役員が次の各号に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。
(1)　職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
(2)　職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
（報酬等）
第19条 役員は、その総数の３分の１以下の範囲内で報酬を受けることができる。
２　役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
３　前２項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第５章　総会

（種別）
第20条　この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の２種とする。
（構成）
第21条 総会は、正会員をもって構成する。
（権能）
第22条 総会は、以下の事項について議決する。
(1) 定款の変更
(2) 解散
(3) 合併
(4) 事業計画及び予算並びにその変更
(5) 事業報告及び決算
(6) 役員の選任又は解任、報酬
(7) 入会金及び会費の額
(8) 会員の除名
(9) 資産の管理の方法
(10)借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
(11)　解散における残余財産の帰属
(12)　事務局の組織及び運営
(13)　その他運営に関する重要事項
（開催）
第23条 通常総会は、毎年１回開催する。
２ 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。
(1)　理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
(2)　正会員総数の５分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
(3)　第15条第５項第４号の規定により、監事から招集があったとき。
３　通常総会・臨時総会ともに即時性・双方向性が確保されたオンライン会議システムにて実施することを可能とする。
（招集）
第24条 総会は、第23条第２項第３号の場合を除き、理事長が招集する。
２　理事長は、第23条第２項第１号及び第２号の規定による請求があったときは、その日から３０日以内に臨時総会を招集しなければならない。
３　総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも開催の日の５日前までに通知しなければならない。
（議長）
第25条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。
（定足数）
第26条　総会は、正会員総数の２分の１以上の出席がなければ開会することができない。
（議決）
第27条　総会における議決事項は、第24条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
２　総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可

否同数のときは、議長の決するところによる。
3　理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。
（表決権等）
第28条　各正会員の表決権は、平等なるものとする。
2　やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
3　前項の規定により表決した正会員は、第26条、第27条第２項、第29条第１項第２号及び第47条の適用については、総会に出席したものとみなす。
4　総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。
（議事録）
第29条　総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
(1)　日時及び場所
(2)　正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
(3)　審議事項
(4)　議事の経過の概要及び議決の結果
(5)　議事録署名人の選任に関する事項
2　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人以上が記名押印または署名しなければならない。
3　前２項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的記録をもって同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
(1)　総会の決議があったものとみなされた事項の内容
(2)　前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
(3)　総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数
(4)　議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第６章　理事会

（構成）
第30条　理事会は、理事をもって構成する。
（権能）
第31条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。
(1)　総会に付議すべき事項
(2)　総会の議決した事項の執行に関する事項
(3)　その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項
（開催）
第32条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。
(1)　理事長が必要と認めたとき。
(2)　理事総数の過半数以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
(3)　第15条第５項第５号の規定により、監事から招集の請求があったとき。
(4)　開催場所に関し、即時性・双方向性が確保されたオンライン会議システムにて実施することを可能とする。
（招集）
第33条 理事会は、理事長が招集する。
2　理事長は、第32条第２号及び第３号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
3　理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも開催の日の５日前までに通知しなければならない。

（議長）
第34条　理事会の議長は、理事長がこれに当たる。
（議決）
第35条　理事会における議決事項は、第33条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
２　理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（表決権等）
第36条　各理事の表決権は、平等なるものとする。
２　やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
３　前項の規定により表決した理事は、前条および第37条の適用については、理事会に出席したものとみなす。
４　理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。
（議事録）
第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
(1) 日時及び場所
(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的方法による表決者にあっては、その旨を付記すること。）
(3) 審議事項
(4) 議事の経過の概要及び議決の結果
(5) 議事録署名人の選任に関する事項
２　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人以上が記名押印又は署名しなければならない。

第７章 資産及び会計

（資産の構成）
第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。
(1) 設立の時の財産目録に記載された資産
(2) 入会金及び会費
(3) 寄付金品
(4) 財産から生じる収益
(5) 事業に伴う収益
(6) その他の収益
（資産の区分）
第39条　この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。
（資産の管理）
第40条　この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。
（会計の区分）
第41条　この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する事業会計とする。
（会計の原則）
第42条　この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。
（事業計画及び予算）
第43条　この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。
（暫定予算）
第44条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。
２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。
（予算及び事業計画の追加及び更正）

第45条　議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算及び事業計画の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）

第46条　この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（事業年度）

第47条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

（臨機の措置）

第48条　予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第８章　定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第49条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第３項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

2　この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

（解散）

第50条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

(1)　総会の決議
(2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
(3)　正会員の欠亡
(4) 合併
(5) 破産手続開始の決定
(6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2　前項第１号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の４分の３以上の承諾を得なければならない。

3　第１項第２号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（清算人の選任）

第51条　この法人が解散（破産手続開始の決定による解散を除く。）するときは総会において、清算人を選任する。又は、選任しない場合は理事が清算人となる。

（残余財産の帰属）

第52条　この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第３項に掲げる者のうち、総会で議決したものに譲渡するものとする。

（合併）

第53条　この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の４分の３以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第９章　公告の方法

（公告の方法）

第54条　この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第２８条の２第１項に規定する貸借対照法の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

第１０章　事務局

（事務局の設置等）
第55条　この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を置くことができる。
2　事務局には、事務局長その他の職員を置く。
3　事務局長及びその他の職員は、理事長が任免する。
4　事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第１１章 雑則

（細則）
第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附　則
1　この定款は、この法人の成立の日から施行する。
2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	福岡　洸太郎
理事	土井　達也
同	水流　早貴
同	橋本　長武
同	中村　宜熙
同	野口　覚司
同	川和田　鷹大
同	渡邉　有
監事	岩田　裕太

3　この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第１項の規定にかかわらず、成立の日から2023年6月30日までとする。
4　この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
5　この法人の設立当初の事業年度は、第47条の規定にかかわらず、成立の日から2022年３月31日までとする。
6　　この法人の設立当初の入会金及び会費は、第８条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。入会金はいずれの会員においても０円とする。
(1)　正会員会費（個人・団体）　　3,000円（年会費）
(2)　賛助会員会費（個人）　　1口1,000円（月会費）
(3)　法人会員会費（団体）　1口100,000円（月会費）
（1口以上）